



# [Teeta]



## 「テエタ」

「テエタ」はアイヌ語で“昔”を意味します。北の大地で繰り広げられた昔の人々の文化や環境を、現在と未来の人々に伝えるのが私たちの仕事です。昔のこと、古いことを広く知ってほしいという願いを込めて「テエタ」をこの冊子のタイトルにしました。



北斗市館野6遺跡竪穴住居跡調査状況（縄文時代中期）

- 平成20年度発掘調査概要 ..... 2
- 平成20年度の調査 ..... 3
- 「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」の世界遺産暫定一覧表記載について ..... 4
- 資料紹介1 釧路町天寧1遺跡出土のイノシシ・ラッコ資料 ..... 5
- 資料紹介2 恵庭市西島松5遺跡出土のネズミのかじり痕がある玉 ..... 6
- 資料紹介3 千歳市梅川4遺跡出土の岩偶 ..... 6
- 平成21年度調査予定遺跡 ..... 7
- 年代測定値のまとめりとバラツキ ..... 8

## ○平成20年度発掘調査概要

今年度は道内7市町に所在する19遺跡で発掘調査を実施しました。このうち14遺跡は先年からの継続調査です。

〔旧石器時代〕 旧白滝3遺跡では、層位的な上下関係を確認できる石器群を検出しました。石器群は台形様石器群、細石刃石器群（峠下・札滑型?）、舟底形石器群、広郷型細石刃石器群、有舌尖頭器石器群、小型舟底形石器群に分けられ、遺物集中範囲ごとに平面的に分離することができ、しかもいくつかの時期の層位的な重複を確認できます。

アンカリト7遺跡では、広郷型細石刃核を含む石器集中を検出しています。オルイカ2遺跡、祝梅川上田遺跡では細石刃石器群、アンカリト9遺跡ではラウンドスクレイパーが出土しています。

〔縄文時代 早期〕 館野6遺跡では貝殻文土器を伴う土坑、フラスコ状土坑を検出しています。ボンアヨロ4遺跡では焼土を検出し、中茶路式土器が出土しています。

〔同 前期〕 虎杖浜2遺跡では、春日町式、静内中野式土器が出土しており、同時期とみなされる格子目状の押型文土器もあります。館野6遺跡では竪穴住居跡、土坑、焼土などの遺構を検出しています。調査地点には幅30mほどの陥没地形があり、地すべり断層に由来する地形と考えられます。祝梅川小野遺跡では、植苗式土器期の竪穴住居跡、土坑を検出しています。坑底面に厚さ1～2cmの灰白色物質が敷かれている土坑もありました。網文式、円筒土器下層式、大麻V式などの土器も出土しています。

〔同 中期〕 館野2遺跡のC地区では、円筒土器上層式、サイベ沢Ⅶ式土器、見晴町式土器、大安在B式土器期の竪穴住居跡、土坑、焼土、集石などを密集した状況で検出しています。土坑には、墓とみなされるもの、フラスコ状のもの、埋設土器を伴うものなどがあります。数十万点と予測される遺物の中には、土偶、シャチ形土製品(?)、石棒、石刀形石製品、玉などもあります。館野6遺跡で検出された竪穴住居跡は、円筒土器上層式、サイベ沢Ⅶ式、見晴町式などの時期です。

石倉1遺跡ではサイベ沢Ⅶ式土器、見晴町式土器が、祝梅川小野遺跡では、円筒土器上層式、天神山式、北筒式などの土器が出土しています。梅川4遺跡では蛇紋岩系石材の板状岩偶が出土しています。

矢不來9遺跡では竪穴住居跡、土坑、焼土を検出しています。住居跡には、6カ所の柱穴が明瞭なものがみられます。

〔同 後期〕 石倉1遺跡では、竪穴住居跡、水場遺構などを検出し、土器は天祐寺式、涌元1式、涌元2式、トリサキ式、大津式、手稲式などが出土しています。祝梅川小野遺跡では、手稲式土器期の竪穴住居跡を検出し、タブコブ式土器、ウサクマイC式土器、ホッケマ式土器、堂林式土器、御殿山式土器などが出土しています。

〔同 晩期〕 祝梅川小野遺跡ではタンネトウル式土器の時期の土坑を検出しています。これらの土坑は隣接する梅川4遺跡から続く遺構群です。この遺跡では美々3式土器と、樽前c降下火山灰の上下の層からタンネトウル式土器が出土しています。梅川1遺跡では、タンネトウル式土器期の焼土を検出しています。オルイカ2遺跡ではタンネトウル式土器が出土しています。

天寧1遺跡の竪穴住居跡、土坑、土坑墓、焼土、集石ならびに2カ所の「魚骨（包含）層」は緑ヶ岡式土器の時期と考えられます。ベンガラ、石斧、黒曜石製剥片石器が出土した土坑墓もあります。「魚骨層」で目に付くのは、ヒラメ、カレイ、スズキ、イトヨ等の魚類とイルカ、クジラ等の海生哺乳類、オオハクチョウ、さらにエゾシカ、イヌ等の陸生哺乳類などであり、鉾頭、針などの骨角器もあります。

〔続縄文時代〕 石倉1遺跡では恵山式土器が出土しています。天寧1遺跡の土坑墓のひとつからは、北大式土器が2点器形を保って出土しています。

〔擦文文化期〕 キウス5遺跡では3軒の竪穴住居跡を検出し、そのうちのひとつは平面形が隅丸長方形です。この住居跡覆土上面から甑破片、床面から甕・坏・高坏・小型土器・紡錘車などが出土しています。祝梅川上田遺跡の竪穴住居跡は一辺が6mほどの方形で、東側にカマドがあります。祝梅川小野遺跡の竪穴住居跡のうちひとつは、平面形が方形で南側にカマドがあり、支柱穴は竪穴内にあります。住居跡とその周辺で擦文土器、紡錘車が多く出土しています。また、擦文土器が白頭山-苦小牧降下火山灰(B-Tm)の上下の層から出土しています。

〔アイヌ文化期〕 アンカリト7遺跡では、平地住居跡、建物跡、土坑墓、杭穴、灰集中、焼土、貝集中などを検出しました。住居跡からは棒状礫、鉄鍋、刀子、マレク、鏝などの金属製品が出土しています。長さ235cmの土坑墓の内部四隅には打ち込みの柱穴跡があります。祝梅川上田遺跡でも、建物跡、土坑墓、杭穴、灰集中、焼土、道跡などを検出しています。土坑墓には、青磁皿、漆碗、鉄小刀が副葬されています。金属製品は、鉄鍋、星兜、小札、斧、鎌、鋏先、ヤス、マレク（魚突鉤鉾）、刀子、銅銭などが160点ほど出土しています。建物跡周囲の出土遺物に、キセルや「寛永通宝」などが見当たらないことなどから判断すると、アイヌ文化期でもより古い時期の集落跡であると考えられます。祝梅川小野遺跡では、擦文文化期の竪穴住居跡を迂回する道跡を検出し、そのさきは祝梅川のほうに続いています。焼土・灰集中・骨片集中・礫集中・杭列などが検出された周辺から、内耳鉄鍋、刀子、鏝などの金属製品、「ピツ」と呼ばれる棒状礫が出土しています。樽前a降下火山灰よりも下位の古流路の屈曲部の泥炭層部分から、樹木を加工した角材や切片が出土しています。梅川1遺跡では、丸太の加工残片と見なされる10～20cm角の切片が多量（約4万点）に出土しました。これは樽前a降下火山灰よりも下位の泥炭層からの出土です。梅川4遺跡では道跡を数条確認しています。道跡に沿って、柱穴、焼土などを検出し、鉄鍋、刀子、キセルの雁首、耳飾などの金属製品、ガラス玉、土鈴などのほか、多量の獣骨、カワシンジュガイが出土しています。道跡に沿って、一辺が3.5～4mほどの正方形を成す平地住居跡を検出しました。矢不來9遺跡では、駒ヶ岳d降下火山灰(1640年降下)よりも新しい時期の平地住居跡を検出しています。中央部には炉があり、柱穴の覆土中からキセルの吸い口が出土しています。館野6遺跡では、駒ヶ岳d降下火山灰よりも新しい時期の畑跡を検出しています。

○平成20年度の調査

白老町ポンアヨロ4遺跡

遺跡は、JR登別駅の北東約1km、ポンアヨロ川左岸の台地裾部の緩斜面に位置し、標高は20m前後です。過年度の調査で、縄文時代早期の土坑群、中期の集落などがみつかっています。本年度は道路工事と併行して、町道下部分を調査しました。調査区北部の大半は、蛇行していたポンアヨロ川の旧河道にあたり、河岸段丘崖付近から遺物がまとまって出土しました。土器は縄文時代早期後半の中茶路式が主体で、東釧路Ⅱ式も多くみられます。また段丘上では土坑2基・焼土2カ所があり、その周辺ではフレイク・チップ集中や石斧が4点重なって出土した地点があります。森林の広がる山ろくや海岸を背景とし、河畔に暮らした人々の生活の跡が残されていました。



調査状況

下川町サンル4線遺跡

遺跡は、サンル川の左岸で四線沢川との合流点の段丘上に立地しています。本年度は、昨年度からの継続で900㎡を調査しました。四線沢川の上流部の山には石器の材料となる珪化岩の含まれた岩帯があり、遺跡からはそれらを利用した多くの石器が発見されました。

土層を調べた結果、遺物包含層は上・中・下の大きく3枚で構成されています。中部の包含層の時期は縄文時代中期初頭で、小規模な6カ所の石器集中域が確認できました。これらの集中域は、珪化岩の原石を割った場所であることが分かりました。

上部と下部の層では、石器が多量の礫と一緒に発見されており、河川によって流されてきたものだと分かりました。この中には旧石器時代の石刃核と思われるものも含まれています。



調査状況

釧路町天寧1遺跡

遺跡は、JR釧路駅から東北東へ約5km離れた釧路湿原東縁の釧路川左岸に位置しています。調査範囲は台地上の平坦面から斜面にかけて広がります。平坦面では堅穴住居跡4軒、土坑29基、焼土12カ所、集石6カ所などが密集して検出され、土坑には勾玉や石斧などがベンガラとともに副葬された墓があります。遺物は、縄文時代晩期末から続縄文時代初頭を主体として縄文時代早期や続縄文時代後半の土器及び石器が出土しています。

斜面部では縄文時代晩期末に形成された多くの魚骨を含む層が検出されました。ヒラメ・カレイ類・スズキ・イトヨなどの魚骨のほか、オオハクチョウ・イルカ・エゾシカ・イヌなどが含まれ、ラッコやイノシシなども出土しています。



墓坑遺物出土状況

平成20年度発掘調査一覧

事業委託者		原因工事	遺跡名	所在地	調査面積 (㎡)
国土交通省北海道開発局	札幌開発建設部	一般国道337号千歳市新千歳空港関連工事	キウス5	千歳市	721
			オリカ2	千歳市	3,220
			アンカリト-7	千歳市	4,050
			アンカリト-9	千歳市	6,680
			祝梅川上田	千歳市	9,910
	梅川1	千歳市	893		
	祝梅川小野	千歳市	10,267		
	梅川4	千歳市	13,550		
	館野2	北斗市	2,076		
	館野6	北斗市	5,768		
	矢不来8	北斗市	1,791		
	矢不来9	北斗市	1,514		
	矢不来10	北斗市	1,907		
	館野	北斗市	整理作業		
旭川開発建設部	天塩川サンルダム建設工事	サンル4線	下川町	900	
室蘭開発建設部	一般国道36号登別拡幅工事	虎杖浜2	白老町	300	
網走開発建設部	旭川紋別自動車道白滝丸瀬布道路工事	ポンアヨロ4	白老町	1,200	
		旧白滝3	遠軽町	3,300	
北海道	石狩支庁(札幌土木現業所)	柏木川基幹河川改修工事	白滝遺跡群	遠軽町	整理作業
			西島松5ほか	恵庭市	整理作業
釧路	胆振支庁(室蘭土木現業所)	道道北進平取線交付金B(交安)工事	穂別D	むかわ町	報告書刊行
			町道床丹5号線道路改良工事	天寧1	釧路町
東日本高速道路(株)函館工事事務所	北海道縦貫自動車道建設工事	石倉1	森町	15,543	
合			計		84,290

## ○「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」の世界遺産暫定一覧表記載について

平成21年1月5日、北海道と北東北3県及び関係する12の市町が共同で提案した「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」が、ユネスコ世界遺産センターの世界遺産暫定一覧表に記載されました。昨年9月26日に国の文化審議会文化財分科会世界文化遺産特別委員会（以下「特別委員会」）において、追加記載が適当とされ、その後、12月15日の国内の世界遺産条約関係省庁連絡会議において記載決定がなされていました。

「縄文遺跡群」は、北海道と北東北3県の15ヵ所の資産（北海道4、青森8、秋田2、岩手1）で構成され、青森県の大平山元Ⅰ遺跡以外は国指定の特別史跡（青森三内丸山・秋田大湯環状列石）または史跡で、基本的に国内の法律で一定の保護がなされているものです。北海道の4ヵ所は、伊達市北黄金貝塚、洞爺湖町入江・高砂貝塚、森町鷺ノ木遺跡、函館市大船遺跡で、内浦湾沿岸の縄文文化遺跡群として北海道遺産にもなっています。

提案コンセプトのポイントは以下のとおりです。

**【縄文文化の定義】**：完新世の温暖湿潤な気候のもとで成立した生態系の中で、約1万年間営まれた、高度に発達、成熟した採集・狩猟・漁撈文化で、我が国の歴史の大半をしめるもの

**【世界史上の位置付け】**：新石器時代段階において本格的な農耕や牧畜を持たずに、定住化を成し遂げた特色ある文化

**【縄文文化の特色】**：世界的にも古い段階の土器作り、自然の資源を利用するための技術や道具類の発達、列島規模での人や物の移動及び情報の伝達、漆利用などの工芸技術の開発、集落や地域社会を支える祭祀、土偶に代表される豊かな精神文化、自然と共生する観念などの存在

**【縄文文化における北海道・北東北の優位性と特色】**：日本列島の中でも縄文に係る遺跡や国指定の特別史跡・史跡が多い、縄文文化の時期的な変遷や諸要素を語る事ができる集落跡・貝塚・環状列石・低湿地遺跡などがある、環境への適応や自然との共生を具体的に示す多様な立地の遺跡がある、出土品の中には美術工芸的にも優れた国宝や重要文化財がある点など

特別委員会は、縄文遺跡群は世界的にも類をみないほど長期間継続した先史文化における自然と人間との共生を示す考古学的遺跡であり、世界遺産の登録基準にいう「顕著な普遍的価値」を持つ可能性が高い、と総合的に評価しました。しかしながら、次の推薦のステップへ進むためには、資産の拡大や吟味、「顕著な普遍的価値」についての証明や国際的な合意形成、さらに適切かつ十分な保存措置などの必要性が課題とされています。

近年、ユネスコの世界遺産委員会では、登録済み物件の十分な保全を求める意見が多いことから、登録抑制の傾向にあり、「平泉」の登録延期にみられるように、新規登録の審議は厳しさを増しています。暫定一覧表への追加記載はあくまでもスタートラインであり、登録に向けては、十分な条件整備や情報発信を行うなど、多くの方々のご理解とご協力をいただきながら継続的で効果的な取り組みを進めていかなければならないと考えています。

（北海道教育庁生涯学習推進局文化・スポーツ課主査 長沼孝）



国指定史跡 函館市 大船遺跡竪穴住居跡



国指定史跡 森町 鷲ノ木遺跡



国指定史跡 洞爺湖町 入江・高砂貝塚



国指定史跡 伊達市 北黄金貝塚

○資料紹介1 <sup>くしろ てんねる</sup> 釧路町天寧1遺跡出土のイノシシ・ラッコ資料

天寧1遺跡の斜面部では通常残りにくい多量の魚骨・鳥獣骨・骨角器などが出土しました。その層は厚いところで50cmほど堆積し、縄文時代晩期末に形成されたゴミ捨て場と考えられます。

その中に珍しいものとしてラッコとイノシシの骨があります。ラッコは先日釧路川に迷い込んで話題になりましたが、現在北方四島を除く北海道では繁殖していない動物です。イノシシも北海道には生息していません。現在整理中ですが、ラッコは下顎骨と寛骨が、イノシシは下顎骨と犬歯・切歯が確認されています。近隣の同時期の幣舞遺跡でも両者が出土していますが、ラッコは主要な骨が残り、概ね全身が復元される一方、イノシシは歯や四肢骨の一部が残るのみです。ラッコは全身で持ち込まれた可能性が高く、イノシシは顎や手足などの体の一部が持ち込まれたのでしょうか。天寧1遺跡のイノシシの下顎骨は前後が打ち割られ、犬歯が抜き取られています。また、歯根部に穿孔された跡のある切歯が出土し、装飾品として利用されています。これらのほか現在釧路近海に生息していないスズキも多量に出土していることからラッコやスズキは当時の環境を、イノシシは当時の交易の一端を示しているものと思われます。



ラッコ下顎骨



イノシシ切歯 (右：装飾品)



イノシシ下顎骨

釧路町天寧1遺跡出土動物遺体・骨角器 (S=2/3)

○資料紹介2 えにわ にししまつ 恵庭市西島松5遺跡出土のネズミのかじり痕がある玉

西島松5遺跡では、縄文時代後期の墓の副葬品として約1500点の石製玉類が出土しています。玉は、主に緑泥石岩りよくでいせきがんを用い、きれいに形を整え、表面をつるつるに磨いて仕上げています。ところがそのうち6点に、磨いた後につけられた「溝」が見つかりました。「溝」の並びは不規則で、多数の「溝」により、元の形を留めていないものさえあります。玉に模様を刻んだにしては不自然です。人がやったことではないとすると・・・「ネズミがかじった痕では・・・？」

早速ネズミの骨格標本を入手し、その前歯と「溝」の形とを比べてみると、太さといい、2本一組になっているところといい、そっくりです。

そこで、哺乳類の専門家である元北海道大学教授の阿部永ひさしさんに鑑定していただいたところ、「アカネズミがかじった痕」と認定されました。アカネズミは、いわゆる野ネズミの仲間で、主食であるクルミやドングリ類の多い林などに広く生息しています。地中に巣穴を作るため、掘り進むうちに墓に埋められていた玉に偶然行き当たる可能性は十分に考えられる、ということでした。遺跡の周辺にはクルミやドングリ類の木があるので、生息条件もびつたりです。

調べてみると、平成9年に調査された芦別市の滝里12遺跡でも、土坑墓から同様の「溝」のある玉が出土していましたが、当時は「溝」の正体は分かりませんでした。今回の調査で、10年来の小さな「謎」がひとつ解決しました。



中央の5つが「ネズミのかじり痕」のある玉、左右は「普通」の玉 S=実物大  
(上段：上から見たところ、下段：同じ玉を横から見たところ)

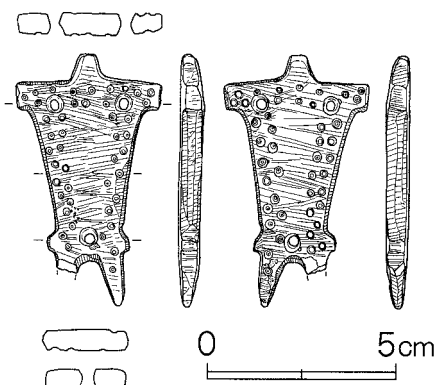
ネズミのかじり痕の拡大  
2本一組の様子が  
良く分かります

○資料紹介3 ちとせ うめかわ 千歳市梅川4遺跡出土の岩偶

縄文時代の、粘土でできた人形（ヒトガタ）を土偶と呼びますが、今回千歳市梅川4遺跡の、地表から1.5mほど下の黒色土層から発見された人形ひとがたは、蛇紋岩系の軟らかい石を加工して作られており、岩偶がんぐうあるいは石偶せきぐうと呼びます。大きさは、長さ6.65cm、幅3.86cm、厚さ0.66cm、重さは18gで、板状の石を磨いて加工してあります。頭、腕、腰、脚と思われる突起を表現し、両肩の一つずつ、腰の中央の一つ、計3つの貫通孔（径約4.5mm）があります。片方の脚は折れて失われておちています。特徴的な装飾は、表面の周縁に沿って二列？に施された円形の凹みです。径1～2mm、深さ1mm弱の凹みが、表面に45カ所、裏面に44カ所、欠損した脚にも施されていたと考えられ、少なくとも90カ所以上の凹みの文様が付けられていたようです。

岩偶が出土した地点の周囲には土器片や、墓穴・住居跡等の遺構はなく、岩偶は単体で出土しました。しかしこの周辺の調査区域では、出土した土器のほとんどが縄文時代中期のものであり、この岩偶もそのころのものと考えてよいでしょう。

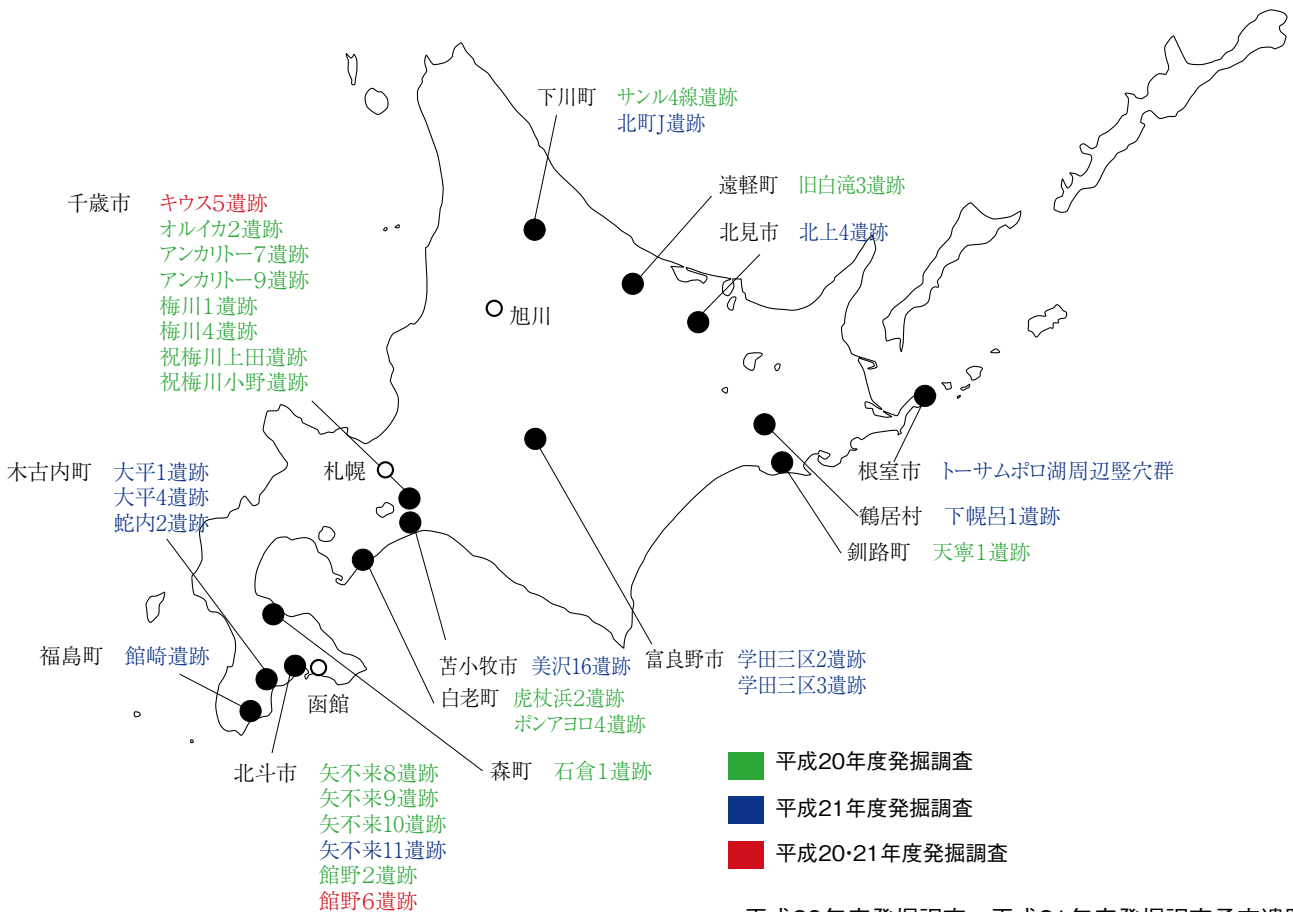
平成4年に調査された青森県の三内丸山遺跡で、ちょっとだけそっくりさんが出ていますが、北海道内でもこの岩偶のお友達を探しているところです。



千歳市梅川4遺跡出土の岩偶（左 実測図・右 写真）

○平成21年度調査予定遺跡

開発事業実施機関名		事業名	所在市町村名	調査遺跡名	調査面積 (㎡)	
国土交通省 北海道開発局	札幌開発建設部	一般国道337号 新千歳空港関連工事	千歳市	キウス 5	3,068	
		新千歳空港19(L)ILS双方向化事業	苫小牧市	梅川 4 ほか	整理作業	
	函館開発建設部	函館江差自動車道 函館茂辺地道路工事	北斗市	館野 6	5,637	
				矢不來 11	1,349	
	旭川開発建設部	天塩川サンルダム建設工事	下川町	北町 J	1,200	
		旭川十勝道路 富良野道路	富良野市	学田三区 2	900	
	室蘭開発建設部	一般国道36号 登別拡幅工事	白老町	学田三区 3	1,360	
				虎杖浜 2	整理作業	
	網走開発建設部	北海道横断自動車道 訓子府北見間改良工事	北見市	ポニアヨロ 4	5,092	
		一般国道450号 白滝丸瀬布道路工事	遠軽町	北上 4	整理作業	
	国土交通省 計					19,966
	(独)運輸施設整備 支援助機 備	北海道新幹線 建設局	北海道新幹線建設	福島町	館崎	1,690
木古内町				大平 1	411	
				大平 4	1,172	
				蛇内 2	10,496	
鉄道・運輸機構 計					13,769	
株式会社 青森建設	函館工事事務所	北海道縦貫自動車道 函館名寄線 (七飯長万部線)	森町	石倉 1	整理作業	
	東日本高速道路株式会社 計					0
北海道	札幌土木現業所	柏木川基幹河川改修工事	恵庭市	西島松 2 ほか	整理作業	
	釧路土木現業所	釧路鶴居弟子屈線交安1種(統合)工事 根室半島線 交付金B事業	鶴居村	下幌呂 1	1,590	
			根室市	トーサムポロ湖 湖周辺堅穴群	400	
北海道 計					1,990	
市町村	釧路町	町道床丹5号線道路改良工事	釧路町	天寧 1	整理作業	
合計					35,725	



## ○年代測定値のまとめとバラツキ

釧路町天寧（てんねる）1遺跡の発掘は2005年、2006年におこなわれ、2008年3月に報告書が刊行されました。現在の湿原の地表面よりも深い位置である標高5m以下に、縄文時代後期前葉の北筒V式土器の時期の貝塚が見つかりました。この貝塚で得られた同時期とみられる試料（サンプル）で年代測定を行いました。その試料の種類により年代測定値が異なるという結果が得られていますので、紹介します。

貝塚の大きさは、平面的には縦横5m、厚さは最大80cm程のまとめりです。貝の種類をみると圧倒的多数を占めるのはオオノガイであり、アサリが少量、ほかにヒメエゾボラ、ホソウミニナ、エゾタマガイなどです。魚類は、キュウリウオが多く、カレイ類、ニシン類、ウグイ類、カジカ類、マダラ、カサゴ類などです。鳥類は、ガン・カモ類、哺乳類はシカ、オットセイ、イルカ類が多くみられます。表はこの貝塚から得られた炭化木片、炭化クルミ、貝殻、人骨、オットセイなどの年代測定値です。図に見るように年代測定値は3700年前の前後と4400年前の前後にまとまっています。ここには引用していませんが、天寧1遺跡、ほかの遺跡での炭化木片などの年代測定値では、北筒V式土器は3700年前に使われた土器とみられているので炭化木片、炭化クルミさらにシカの骨は<sup>14</sup>C測定年代として妥当な数値と考えられます。貝殻、魚骨、オットセイ、人骨などによる、4400年前の前後の測定値は、海生生物あるいは海産物を食べていた生物から得られています。このようないくぶん古い数値は「海洋リザーバー効果」といわれています。「海洋リザーバー効果」を示すものの最大値は4500年前ですが、4300～4500年前にまとまります。

これらの資料はすべて貝塚形成期のほぼ同時期のものであり、考古学的には最良の試料なので、理論どおりであればほぼ同じような数値になるはずですが、しかしながら、実際の年代測定値はこのような二三の群になっているのです。このような年代数値の違いは、食性や生態（食物連鎖）がもたらす測定試料（サンプル）の違いによるものなのでしょう。

2003年春に、国立歴史民俗博物館の方々による弥生時代の開始年代が500年ほど早まるという問題提起がありました。これについて、私は北海道埋蔵文化財センターが調査した諸遺跡の年代測定値から、土器付着炭化物を試料とした年代測定値は、クルミ殻や炭化木片を試料としたものよりも古い数値を示すものが多いので、国立歴史民俗博物館からの新説には解決すべき事柄が伏在していることを指摘したことがあります。さらに「海洋リザーバー効果」については、列島周辺の海域ごと、列島内では河川流域ごとに測定値を蓄積すべきことも提案しました。考古学的年代測定にあたっては、その測定試料の選択が重要になることを述べたのでした。

天寧1遺跡の発掘報告書や調査年報は、当センターの図書コーナーに置いてあります。北海道内における膨大な発掘成果が、専門家のみならず多くの方々によって利用されるよう願っています。  
（第2調査部長 西田 茂）

測定機関番号	試料種類	炭素14年代
NU-1787	貝殻(オオノガイ)	4290±75
IAAA-70581	貝殻(マガキ)	4260±30
IAAA-70582	貝殻(ウバガイ)	4310±30
IAAA-70583	炭化クルミ	3620±30
IAAA-61997	炭化木片	3740±40
PLD-10864	骨(ヒト)	4500±25
PLD-10865	骨(スズキ)	4465±28
PLD-10866	骨(オットセイ)	4430±30
PLD-10867	骨(タラ)	4430±30
PLD-10868	骨(シカ)	3740±25
PLD-10869	骨(オットセイ)	4295±25
PLD-10870	骨(ヒト)	4405±25
PLD-10871	骨(ヒト)	4390±25
PLD-11140	貝	4415±25
PLD-11141	貝	4520±25
PLD-11142	貝	4485±25
PLD-11149	骨	4490±30

表 釧路町天寧1遺跡 炭素14年代測定値

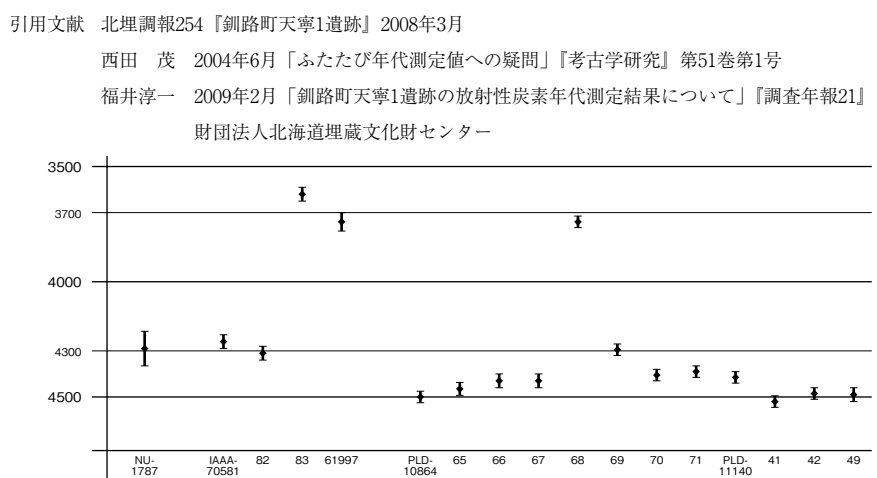


図 釧路町天寧1遺跡 炭素14年代測定値分布図

### ◆交通案内◆

- ・JR大麻駅から、徒歩約20分
- ・新さっぽろバスターミナル発
- ・JRバス（文教通西循環線）・夕鉄バス（文京台南町行）に乗車「くりの木公園前」下車、徒歩5分
- ・JRバス・夕鉄バス（江別方面行き）に乗車「北翔大・札学院大前」下車、徒歩15分

